

10th Anniversary  
くまもと地下水財団  
10周年記念企画  
スペシャル対談

くまもと地下水財団  
理事長  
大西 一史

2022ミス日本  
「水の天使」  
横山 莉奈 さん



2022ミス日本「水の天使」※1として、1年間様々なPR活動に取り組んでいる横山莉奈さん。6月、水の週間実行委員会※2が制作する「シリーズ水のめぐみ 地下水編」の動画制作のために来熊。江津湖や熊本の重要なかん養域である地下水を育む水田を訪れるなど、熊本の地下水保全活動について学ばれました。その時に感じた熊本の水の魅力、豊かな地下水を未来へ引き継ぐためにできることを理事長と語り合います。



**理事長** ありがとうございます。熊本の地下水は「量」が豊かなのはもちろん、ミネラル分がバランスよく溶け込んでいて「味」も大きな魅力です。毎日のお風呂も天然のミネラルウォーターに入っているようなもので、とにかく気持ちがいいです。

**横山** とても贅沢ですね。でも、どうして熊本の地下水はこんなに豊かなのでしょう。

**理事長** その理由は、阿蘇山にあるんです。過去の4度の大噴火で水がしみ込みやすく貯まりやすい地層ができ、そこに雨が降って地下にしみ込み、ろ過されて、ミネラル分をゆっくり溶かしながらかけて流れてきているんです。大体、阿蘇西麓から20年くらいかけて熊本市内に流れてくると言われています。

**横山** 熊本の地下水は長い年月をかけて磨かれ、おいしくなっているんですね。

**理事長** もう一つ。熊本城を築き「土木の神様」とも言われる加藤清正公の功績が大きい。清正公は白川中流域に堰や用

水路を築いて大規模な水田開発を行ったんですが、白川中流域は通常の水田に比べて5~10倍も水が浸透しやすい地域だったため、大量の水が地下に浸透し、ますます地下水が豊富になったんです。元々の自然の成り立ちと、その後、うまく地の利を生かした先人たちが守り育ててきた仕組みが今にいたり、熊本地域11市町村、100万人の水道水源のほぼ100%を地下水で賄っている。この人口規模の水道水源を地下水で賄っているのは日本で唯一、世界でも稀です。私たちは恵まれた環境で日々恩恵を受けているんです。

**横山** 元々あった阿蘇山の噴火で生まれた自然環境だけでなく、水田開発をした加藤清正公、それを守ってきた先人たちの力がうまく組み合わさったからこそ、今、おいしく地下水をいただけているんですね。「どれか一つでも欠けていたら熊本の

豊かな地下水はなかったのかもしれない」と思うと、素敵ですね。

6月に熊本を訪れた際に江津湖や水前寺成趣園を訪れ、豊かな水環境が育む景色に癒されました。江津湖の湧き水のところでは、地元の方が空のペットボトルをたくさん持って訪れていました。その姿を見て、「地元の方にとって湧水地は身近な場所なんだな」と微笑ましく感じたことを覚えてます。

私が生まれ育った兵庫県にも、六甲山から流れ出た川の水でできた天然のプールがあって、市民の憩いの場になっています。地下水とともに、こうした水環境も守ってほしいと思いました。

※1 一般社団法人ミス日本協会が主催する「ミス日本コンテスト」の中で選考され、日本の優れた水循環を応援する活動(水の週間実行委員会での活動等)を実施。

※2 同委員会は15の実行委員会組織と30の協賛団体で構成され、「水の日(8/1)」「水の週間(8/1~7)」の全国的な推進を軸に、水資源の有限性、水の貴重さ等について国民の関心を高め、理解を深める活動を行っている。

熊本の地下水は  
量だけでなく  
味、質も誇れるのが  
熊本の地下水です

熊本の地下水の魅力

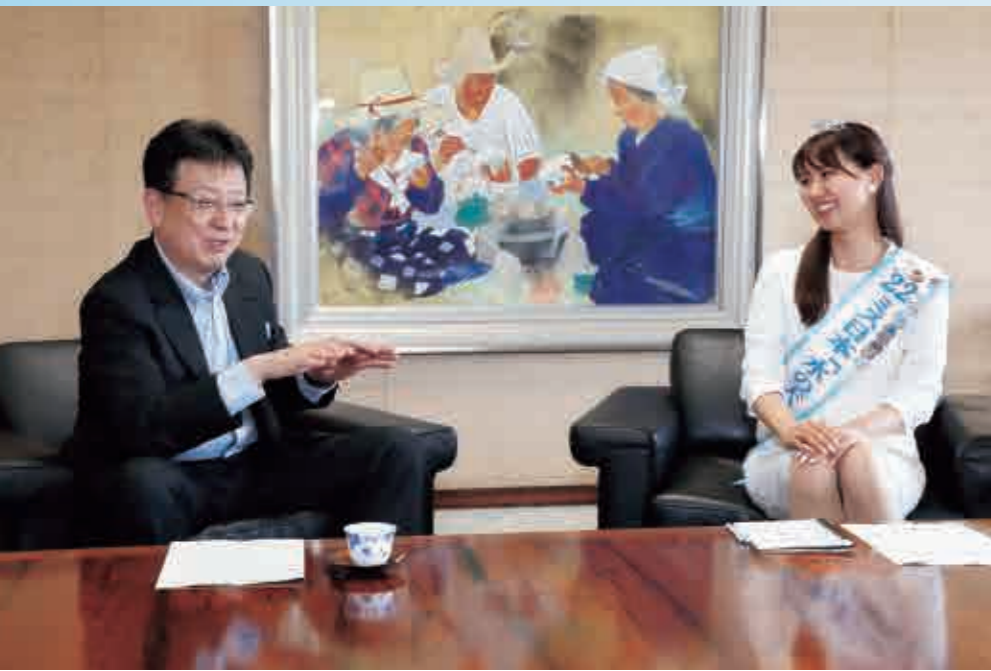
大西一史 理事長(以下、理事長)

「シリーズ水のめぐみ 地下水編」のPR動画を拝見しました。熊本市庁舎前の水道から地下水を飲んでいらっしゃいましたね。熊本の水はどうでしたか?

横山莉奈さん(以下、横山)

撮影の時はちょうど暑い日で、蛇口から出る水の冷たさで生き返ったのを覚えています。そして口に含んだ時の柔らかな甘味。本当に「おいしい!」って感動しました。普段は水道水を一度沸騰させて冷まして飲んでいるんですが、手間もかかるし甘さもそんなに感じたことがなかったので、本当においしくてびっくりしました。熊本は本当にうらやましい環境ですね。

熊本の地下水は  
自然環境、先人の知恵と  
努力の結晶ですね



## 多彩な取組みで 地下水を守る

**横山** 豊かな熊本の地下水も減少が心配されていると聞きました。何か要因があったのでしょうか？

**理事長** まずは都市化が進んだことが挙げられます。昭和30年代までは田畑や土がむき出しになった土地が多く、降った雨が地下に浸透しやすい環境でした。ところがアスファルトの道路が増えたり、土地がコンクリートで覆われるようになると水が地下に浸透しづらくなりました。またライフスタイルが変わり、お米の消費量が減ったことで稲作を辞めた農家さんが増えたことも地下水の減少につながりました。

**横山** 以前、熊本を訪問した時に初めて地下水と農業の関係を知りました。私自身、パンも食べますし、道路などインフラが整備された都市で暮らす便利さも感じています。ライフスタイルの変化。私と関係あることが地下水の減少に関わっているというのが何だか他人事ではないという気がしてしまいました。

**理事長** 厳しい状況があったときに、そこからこの地下水を未来へつ

ないでいこうと取組みが進んできました。地下水財団も多くの皆様の危機感から生まれたと思っています。設立以来、財団では多くの研究者の方々と研究や調査を行ってきています。熊本には地下水を観測する井戸がたくさんあります。地下水の量はこのくらい、質はこのくらいとずっと観測してきている。そのデータを確認、評価しながら、地下水の量を増やす水田に湛水する取組みや、水源かん養林として森林の整備もしている。他にも、地下水を育む田畑で栽培された農畜産物を購入・消費することで地下水保全につながる「ウォーターオフセット」の取組みなども行っています。流域の上流域の方も中流域の方も下流域の方もみんなが協力的に守っていくという気持ちが強いですね。

**横山** 地域一体となって取り組んでいるんですね。実は6月に熊本を訪れた際に、ウォーターオフセットの取組みの一つである、かん養域で作られた飼料用米を食べて育った「えこめ牛」をいただきました。さっぱりしていておいしかったのはもちろん、えこめ牛を「食べる・感想を伝える」ことが地下水保全のPR

にもつながると気づかされました。

**理事長** 地下水保全の取組みにより、最近では地下水の量も改善している。最後はやっぱり人の力なんだと思います。

**横山** たくさんの方々が協力して取り組んでいることによって地下水の量が回復しているのは素敵なことです。熊本を訪問した際に水田を視察して地下水保全に取り組む農家の方のお話を聞いたのですが、農家の方が地下水保全に対してすごく誇らしく説明されていたのが印象的でした。すごく素敵で、本当にみんなで取り組んでいることが伝わりました。

**理事長** 地下水保全は、人の意識を変え、人の力で維持していくことが大切だと思います。例えば、節水にしても使用量が見える化することで自分たちの行動を変えていく。指標や目標で良くなっているのかといったことが目に見えるようにしていくことは大事なことです。ここで気を緩めることなく、未来へ豊かな地下水を引き継いでいきたいですね。地域によっては硝酸性窒素の濃度が上昇傾向にあるエリアもありますので、水質に関する課題ともしっかり向き合っていきたい。横山さんにはぜひ、熊本の水の応援団として、これからもPR活動にお力添えいただけると嬉しいです。



## 豊かな地下水を 未来へつなぐために

**理事長** 熊本は水が豊かですから、製造過程で多くの水を必要とする半導体メーカーなどにとって非常に魅力的な土地と言えます。企業を誘致することで熊本の経済は活性化しますから嬉しいことですが、同時に環境負荷への軽減に配慮いただいたり、地下水を増やす活動に共に取り組んでもらうことも大切です。そういう意味でも、財団が行っている地下水保全に積極的に取り組む企業を顕彰する地下水保全顕彰制度は大きな役目を担っていると思います。

地下水を利用する皆さんが、水を守る行動をすれば、社会的に評価されるということにもつながっている。県内の企業はもちろん、熊本に進出される企業の方々は水を使っても汚してはいけない、水を守らないといけないという意識が高い。

**横山** 確かに。財団の顕彰制度を通して、地下水保全に対する意識を高めることができますね。私は現在、医学生ですが、医療の現場で予防医学が目ざされているように、地下水保全も同じで予防的な取組みが大切だと感じました。経済の活性化と地下水保全活動が両輪となり、うまくバランスを保ち、未来に進んでいければ理想的ですね。

**理事長** そうですね。バランスが大事ですね。振り返ると、2016年に発生した熊本地震の時、断水を経験して、自分たちはこんなに恵まれた生活をしていただくと初めて気づきました。地下水に恵まれていて蛇口を

ひねればミネラルウォーターが出てくるのが当たり前だと思っていました。

**横山** 私の座右の銘は「当たり前と思わない、何事にも感謝する」というものなんです。熊本地震のお話を伺って、熊本のミネラルウォーターほどではないのですが、いつも日々、水道をひねって水が出ることに改めて感謝しなければいけないと思いました。そして、熊本の方々にとって地下水は本当に宝物のような存在なんだと感じました。



**理事長** 豊かな水がある熊本ならではの「当たり前」の日常。それを未来に残していくためには、若い世代に、水に興味を持ち行動に移しても

らうことが大切だと感じています。今年4月、「第4回アジア・太平洋水サミット」が熊本市で開催され、高校生による「ユース水フォーラムくまもと」のメンバーが地下水保全の取組みに非常に興味を持っていただいて、熊本の水の魅力を世界に向けて発信してくれました。若い世代の皆さんに関心を持ってもらい、知識も深めてもらい、次の世代に継承していかないと。若い世代の皆さんが地下水を守ろうと、いざ何かあったときも先人たちがこうやって守ってきたんだということを、継続して、実践してほしいと期待しています。そのために、地下水財団がしっかりバックアップしていきたいと思っています。横山さんも水の天使として水にまつわる様々なことを発信されるリーダー役として今後も活躍していただければと思います。

**横山** 私も水の天使として、熊本の地下水の魅力、日本の水の魅力を一人でも多くの方に伝えられるように、残りの任期を努めていきたいです。

